

平成21年3月23日

畜産技術レポート

第64号

島根県畜産技術センター 畜産技術普及G

TEL= 0853-21-2631 FAX=0853-21-2632 URL= <http://www.pref.shimane.lg.jp/chikusan/>

肥育農家から喜ばれる腹づくりのできた子牛育成方法の実証 ～「しまね和牛」子牛飼いやマニュアルの実証状況～

1.はじめに

昨年から枝肉相場の低迷と連動して子牛価格も下落傾向が続いています。さらに、島根県産肥育牛の枝肉成績が伸び悩み、島根県の子牛価格は全国と比較すると約10%程度の低い価格で取引されています。この要因の一つとして、市場出荷子牛の腹づくりや出荷時における発育のバラツキなど、子牛育成方法も影響していると考えられます。

平成19年10月に「しまね和牛」子牛飼いやマニュアル(以下「マニュアル」)が改訂され、子牛の腹づくりに重点をおいた育成方法が提示されました。本県の素牛評価を高めるためには、このマニュアルを県内の繁殖牛農家が理解し、早期に実践する必要があります。

そのため、農業技術センター技術普及部は各関係機関と協力して、平成20年6月から県内4戸の繁殖牛多頭飼育農家においてマニュアルの実証展示に取り組んでいます。さらに、他農家へ波及させるために実証牛を地域内の共進会に展示したり、研修会で実証状況を報告する等の普及推進を行ってきました。

今回、この実証牛の子牛市場へのお荷が始まりましたので、これまでの状況を報告します。

2.県マニュアルの実証状況

実証農家は地域性を考慮して、中央子牛市場上場農家3戸と西部子牛市場上場農家1戸の計4戸を選定し、16頭の実証牛(雄9頭、雌7頭)に対して概ね1ヶ月齢から出荷時まで、月1回の体測(体高、胸囲、腹囲)と採食量調査を行いました。その調査時の状況を加味して、マニュアルに沿った飼養管理を行うよう指導しました。

(1)採食量の状況

マニュアルでは、4～5ヶ月齢(前半)までに十分な濃厚飼料量を食い込ませることで、骨格の形成と第一胃の発達、特に絨毛の発育を促し、5ヶ月齢～出荷時(後半)の粗飼料の食い込み量を増加させることを目的としています。出荷時における粗飼料採食量の目安は、去勢で4kg以上、雌で3.5kg以上としています。



写真1 マニュアル実証牛の展示
(共進会にて)

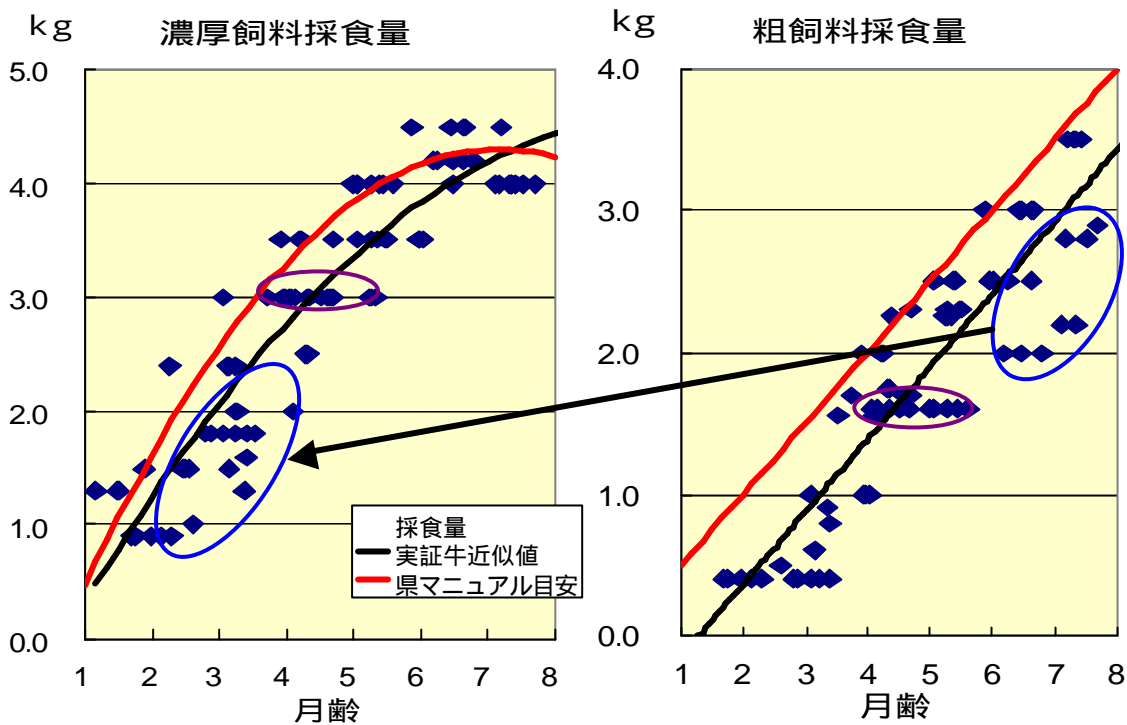


図1 実証牛の飼料採食量の推移
 ○:離乳時期、 ○:採食量の少ない実証牛群

実証子牛の採食量を月1回調査したところ、前半の濃厚飼料採食量は農家によりバラツキがみられ、濃厚飼料採食量が少ない実証牛は後半(5~7ヶ月齢)の粗飼料採食量が少ないという傾向がみられました(図1)。前半の濃厚飼料採食量が少なかった要因としては、

- 「本当に濃厚飼料をこんなに食べさせて良いのか」
- 「濃厚飼料を早くから食べると後半に粗飼料を食べなくなるのでは？」
- 「前半も粗飼料をしっかり食べさせなくては行けないのでは？」

という意識が農家に働いたため、前半の濃厚飼料の給与量自体が少なかったこと、また月齢に差のある多頭群飼育での食い負けなどが考えられます。

(2)体測の状況

実証牛に対して月1回体高、胸囲及び腹囲の測定を行いました。

実証牛の各月齢における体高の推移は、マニュアルに設定してあります目標値には届きませんでした。ほとんどの子牛が(社)全国和牛登録協会の発育標準値以上の発育をしていました(図2)。

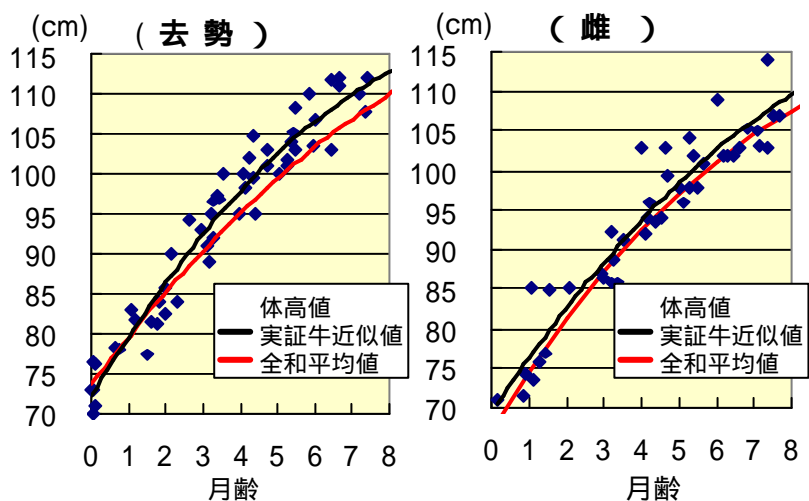


図2 調査期間中における実証牛の体高値の推移

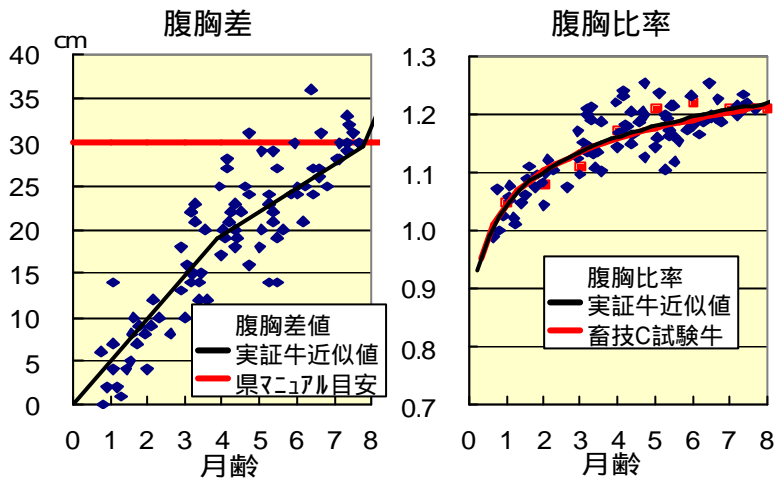


図3 調査期間中における実証牛の腹胸差及び腹胸比率の推移

また、腹づくりの目安としては「腹囲胸囲差 (腹胸差)」と「腹囲 / 胸囲 (腹胸比率)」を指標としました (図3)。腹胸比率は目安である1.2以上におおよそ6ヶ月齢で到達しました。腹胸差は出荷前 (農家庭先) に30cm以上 (市場時26cm以上) を目安としていますが、市場出荷時では大半の実証子牛が到達できると考えています。(平成21年3月出荷の実証牛の成績は表1参照)。

今回の実証展示では、離乳時期が遅れた子牛の腹胸差及び腹胸比率は、早期に離乳した子牛と比べ数値が低い傾向であり、外観からも腹づくりが劣っているという印象を受けました。早めの離乳 (離乳時期については畜技レポート63号「子牛編」参照) と制限哺乳 (特に泌乳量の多い母牛) の重要性を改めて実感しました。

(3) その他管理

実証農家はいずれも、衛生管理への意識は高く、分娩房の消毒、駆虫、ビタミン投与、初乳の確認、下痢の対応等に大きな問題はありませんでしたが、駆虫とビタミン投与についてはマニュアルに沿っての対応をお願いしました。

表1 平成21年3月市場出荷牛の採食量と体測値 (市場時測尺)

項目	頭数	日齢 (日)	採食量 (kg / 頭・日)		腹胸差 (cm)	販売価格 (円)	*市場比 (%)
			濃厚飼料	粗飼料			
雌	3	275	4.1	3.6	26	242,200	99.9
去勢	7	254	4.5	4.0	27	381,900	111.6
平均		260	4.4	3.9	27	339,990	108.1

注) *市場比 : 当該販売価格 ÷ 当該市場平均価格 × 100

(4) 実証牛の市場出荷状況

平成21年3月の西部及び中央子牛市場から、実証牛の出荷が始まりました。

雌子牛は発育にバラツキが見られました。粗飼料採食量は雌で3.6kg、去勢で4kg / 頭・日、腹胸差27cmと概ね目標どおりの腹づくりができました。販売価格も平均を上回り、一定の評価を受けたと感じています (表1)。



写真2 子牛市場でのマニュアル実証牛の測尺

また、生産者及び購買者に今回の実証を広くアピールするため、3月の中央子牛市場において、全農島根県本部と連携して、実証牛が区別できるように看板を設置したり実証状況のチラシの配布、さらにセリ時にマニュアル実証牛の公表などを行いました。

実証展示牛を見た購買者からは、看板に示してある採食量、特に粗飼料の採食状況についての質問もあり、関心を持ってもらえたと思います。



写真3 マニュアル実証牛をみる農家及び購買者
(平成21年3月子牛市場において)



写真4 マニュアル実証牛の展示風景
(平成21年3月子牛市場において)



3.まとめ

和牛子牛の育成方法については、「育成前半期(5か月齢まで)における濃厚飼料の適正給与」および「育成後半期(5か月齢以後)の十分な粗飼料給与」がその重要なポイントとして専門誌等で指摘されています。いくつかの県では既に6~7年前から普及の取り組みがなされ、実際に子牛市場価格に反映している例がみられます。本県においても、事例を参考に、同様な技術ポイントを加味したマニュアルを新たに設定するとともに、実証(平成21年度も継続)を含め、生産農家への普及を図っています。

当センターとしては、関係機関と随時情報交換をしながら、「十分な腹づくりが出来た子牛」が多数市場に出荷されることを目標に、「しまね和牛子牛飼い方マニュアル」に基づく飼養管理の普及を図っていきます。早期に、この取り組みが奏功して、素牛供給県として内外から安定した評価が得られ、価格に反映されることを期待しています。

今後、育種改良、子牛育成、肥育技術のレベルを関係者が一丸となって高めることにより、「しまね和牛」の評価が高まることを期待しています。



豊かな自然と深い愛情が育んだ味の芸術品

しまね和牛肉

しまね生まれしまね育ち

